

同窓会だより

●発行
千葉県立船橋高等学校同窓会
 〒273-0002 千葉県船橋市東船橋6-1-1
 ホームページ <https://dousoukai.site/kenfuna/>
 E-mail funaobog@gmail.com

●印刷 (株)サラト
 姫路市北条宮の町172番地
 TEL079-284-1380

題字／小原天簫先生

母校は今



このところ2年間話題は「長寿命化工事」であるが、例に漏れずその話になる。今年度の夏休みに南館と新館の工事が完了し、仮校舎に移動していた南館・新館(主に理科・社会・芸術の教室並びに研究室がある)の引越しが無事に完了した。私が常駐場所としていたのは南館3階の社会科研究室(地歴公民研究室とはならないし、今後もならないであろう。以下社研)である。生徒時代、この場所に行ったことがある人は少ないであろう。かくいう私も3年生の時の担任が日本史の先生だったため、面談等で一度

か二度行ったことがあるかも…というくらいである。さて仮校舎住まいも終盤に差し迫った7月、社研の話題は工事後の南館のことに集中した。外観は本館から逐一見ることができたが、中は一切見ることができなかつたので一抹の不安として「外はきれいだけど戻ってみたら、中は以前と変わらなかつた。」「だつたらどうしようという思いもあつた。しかしいざ足を踏み入れてみると、そこは夢の世界。エレベーターが新設(生徒の使用は一部制限)されており、床も天井も廊下も一新(写真)一番感動したのはトイレで、全て洋式にリニューアル、照明から水道に至るまで自動になつた。今までの「趣のある」校舎にも愛着があつたが、新しくなつた船高の校舎もまた格別である。次はいよいよ船高の本丸ともいふべき本館が冬休みに引越しをする。生徒たちが(予定では)1年近く仮校舎住まいとなり、現在私が受け持っている2年生は卒業間近まで仮校舎で過ごすこととなる。不憫ではあるが、環境の変化を言い訳にせず、これまでの先輩たち以上に成長して次のステージに進んでほしいと思う。

私が船高に着任してから8年が過ぎ、その間新教育課程への移行、コロナ、創立百周年記念式典、そして長寿命化工事と母校の変革期に教鞭を執ることができた。社会の価値観も以前と大きく変わる中、船高で開校以来変わらないものは何か。それは生徒と教員の情熱だと思う。日々の授業はもちろん、平日の始業前・土曜・長期休業中に行われる補習・部活動(相変わらず加入率は100%を超えている)・数々の行事(今年度のたしぼな祭は仮校舎使用のため、入場を制限して行われた)など年間を通して生徒と教員の活動が展開されている。創立百周年を機に制定された校訓「専心研学」は船

高を体現した言葉であり、そこに関わる一人一人の情熱にあふれた日々の活動の積み重ねの上に今の船高の姿があるのだと思う。私自身は野球部出身で、現在縁あつて野球部の監督を務めている。今年度の夏の選手権大会は3回戦で市立船橋高校に5対6で惜敗した。実は市立船橋高校とは12年ごとに対戦し、前回(平成24年)は4対1で勝利した。さらに12年前の平成12年は準々決勝で対戦し、1対2でサヨナラ負けした。その時のピッチャーが私自身である。負けたことは残念だったが、強豪校を相手に一歩も引かなかつた選手、スタンドで必死に応援してくれた応援団や一般の生徒、平日にも関わらず球場に足を運んでくださったOB・OGの方々、船高の先輩・後輩のつながりを感じた瞬間でもあつた。あと何年母校で勤務できるかわからないが、学年主任・監督・そして先輩として、船高生には人生のどこかでリーダーを担ってほしい。彼らにはその資質もあればある程度責務もあると考えている。母校に勤務するという目標がかなつた今、社会で活躍できる人材を輩出できるよう、今後専心研学の精神を育んでいきたい。

地歴公民(世界史)教諭
 日暮 剛平(平成13年卒)

同窓生 & 在校生

(令和6年10月1日現在)

同窓会員数	36,883人
名簿登載数	36,493人
うち全日制(中学含む)	29,726人
定時制(農業科含む)	5,480人
旧職員	1,287人
住所不明者	12,947人
在校生	1,264人
全日制 男 642人 女 429人	計 1,071人
定時制 男 102人 女 91人	計 193人
教職員	121人
全日制 83人 定時制 38人	(うち同窓生12人)

ご挨拶



同窓会会長

島崎 喜一

(昭和48年卒)

2月11日、27回目の「春の同窓会」は4年ぶり、コロナ禍の自粛明けということもあり、参加人数に一抹の不安のある開催となった。はてさて杞憂は会場いっぱい皆さんの笑顔で一蹴された。

1995年に始まった「春の同窓会」は還暦を迎える卒業生が幹事学年となり同窓会と一体となって企画運営を行う。当時の理事からの提案で、同窓会活動の充実、活性化、何より会員相互の親睦を図つてのことと聞いている。母校創立75年の年でもあるので周年記念の冠もあったのだろうか。

残念ながら私は第5回からの参加となる。この年の参加者は今より少なく、同期からの参加は2名だったと記憶している。会場は今回同様ホテルグリーントワー。その後は会場を船橋市内に移し、同窓会の主要行事となっている。今や春の同窓会は毎回300人を超える仲間が集い語り楽しいひと時を過ごす場となり、母校での思い出にドブプリ浸かることができる日となっている。主役は参加される皆さんお一人お一人であり、何よりメンバーのテーブルには幹事学年の皆さんが並ぶ。

我が同期学年も2015年に無事大役を終え2年毎(夏冬オリピック開催年)に同期会を開催している。春の同窓会を契機とする、また、その準備

御挨拶



千葉県立船橋高等学校
校長 風戸 正

のため、同期会を始める学年も多いのではないだろうか。ということもあり、同窓会では学年同期会を支援させていただく仕組みを検討しています。同期会を通して同窓会の裾野を広げる一助になればと思っています。

会員の皆様には、本校の教育活動への御支援、御協力を賜り心より感謝申し上げます。校長2年目を迎え、皆様方とお会いする中で、少しずつではありますが顔の見える関係になりつつあるかと存じます。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、昨年度は、やっとコロナ禍以前と同様に同窓会の活動も行えるようになりました。着任1年目の私にとっては、船高同窓会がとても新鮮でありました。多くの活動が「4年振り」というフレーズで始まっていたことを思い出します。主な活動は役員会、夏・冬の理事会を経て8月の総会でした。並行して毎年2月に実施される「春の同窓会」は、同窓生の多くが期待を寄せる一大イベントとして定着していることを知ることができました。同窓会の役員・理事の一覧に目を向けると、顧問の林昇志様が昭和28年卒で最高齢であり、昭和30年卒の方から年度毎に理事が名を連ねており、毎回多くの方が会議等に出席されますことにビック

御挨拶



千葉県立船橋高等学校
教頭 真田 陽子

りいたします。感謝申し上げます。母校に対する愛着の現れだと実感いたします。諸先輩方からは、当時から文武両道と自主自律の精神は自然で当たり前のごことで、特に「武」＝「部活」に関する思い出をたくさん聞くことができました。楽しみながら切磋琢磨し、「負けてたまるか」、「良いものを創りあげたい」の一心だったようです。「失敗とか、成功とか」はあまり気にかけていなかった口ぶりが時代の違いを感じることもありますが、自分がやりたいうことを夢中でやるという「純粋な気持ち」を感じました。その都度、現役の生徒たちにも是非聞かせたい、知ってもらいたいという思いに駆られております。

引き続き、後輩たちが第二世紀をしっかりと歩んでいけるよう御指導・御鞭撻をお願いいたします。また、今後とも会員の皆様の益々の御活躍と御健康、千葉県立船橋高等学校同窓会の御発展を心から祈念申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

御挨拶



千葉県立船橋高等学校
教頭 鎌田 康慎

ここで過ごしてきた多くの人の思いがあります。受け継がれてきたものを大切にしながら新たな歴史を紡いでいく、その一翼を担う使命に身の引き締まる思いです。

さて、本校の校訓「専心研学」は、心を専らにし学を研ぐと訓み、全力で研究・学問に徹することを意味します。が、白川文字学による漢字の字源からひもとくと、「専」という字は上部を括った袋を手(寸)で持つて中の物を丸くうち固めることを表し、「研」は筭(こ)うがい↑箸のように細長い形をした髪をかき上げる装飾的な結髪用具)を石で磨き上げることを表す字です。困難を通じて人は研かれ、やがて丸く堅くなれていくのですから、本校の生徒には、つらいからと安易な道に流れたり、挫折したからと悲観したりすることなく、すべての経験を糧に、強くなりなやかに成長してほしいと願っています。県立船橋高等学校同窓会の益々の御発展を祈念しております。

今年度、教頭として着任しました鎌田と申します。昨年までは3年間、県教育委員会の教育政策課で勤務していました。船高には令和2年度まで5年間勤務し、教務主任をしていたのである程度校内の事情を把握しているつもりですが、管理職という立場は以前とは異

令和 6 年度
千葉県立船橋高等学校同窓会役員

会長 島崎 喜一 (昭和48年卒)
副会長・専務理事 大浦 成子 (昭和49年卒)
副会長・事務局長 森 和俊 (昭和50年卒)
副会長 田辺 幸一 (昭和41年卒)
副会長 吉野 深雪 (昭和52年卒)
副会長 坂間 明彦 (昭和55年卒)
監事 柴田 昭一 (昭和48年卒)
監事 金子 孝 (昭和49年卒)

同窓会学年理事名簿 令和6年4月1日現在

Table with 3 columns: Graduation Year (e.g., 昭和28年), Name (e.g., 林 昇志*), and Current Year (e.g., 令和53年). Lists members for each year from 昭和28 to 昭和52.

校長及び校内理事は記載していません

氏名の末尾に*付きは役員

理事未選出学年

卒年(3月)別の学年理事の一覧となりますが理事が選出されていない学年があります。該当する学年は、卒業時に選出された学年代表または同期同窓会を開催した時の代表幹事などを基に学年理事を推薦してください。決定しましたら同窓会事務局までご一報ください。またご質問等がありましたら同様に願います。

本年度の総会は例年通り学校で開催する事が出来ました
八月四日(日)に母校で開催された総会(写真)では、令和五年度事業・決算の報告、令和六年度の事業計画・予算、役員改選、が承認されました。
新しい役員の方々は次の通りで任期は令和八年度までの三年間となります。

令和六年度 総会報告

なり、本当に目の回るような日々が過ぎていきます。先生方に助けられ何とか半年が過ぎました。
以前の勤務の最終年がコロナの年でした。年度初めから臨時休校が続く、多くの困難をひとつずつ乗り越えていったのがつい先日のことのようです。当時導入した『Google Classroom』が、今は校務の様々なところで活用されており、感慨深い気持ちです。
また、令和2年度は創立百周年記念式典の年でした。船橋アリーナでの式

典は中止になりましたが、同窓会の御支援により全ての普通教室にプロジェクトターが配備され、第一会議室から式典の様子をオンライン配信。同窓会の皆様にも御参加いただくことができました。百年の伝統が持つ偉大なパワーを感じた出来事でした。
同窓会の皆様には、引き続き本校の教育活動に御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、同窓会の益々の御発展を祈念し、着任の御挨拶とさせていただきます。

同窓会会計報告

令和五年度の決算では、令和六年三月に卒業された新会員四百一名分の入会金、「春の同窓会」への会費収入、「同窓会運営費」は千三百七十人を超える多くの会員の皆様の協力のもと三月末日で約三百六十万円が主な収入となりました。なお六七ページにある「運営費納入者芳名録」は、同窓会だよりが届く十二月から翌年九月までの振込みを集計して作成しています。
支出の部の明細は、広報費として同窓会だより第三十六号の製作と全会員(住所判

明者約二万五千人への発送、「春の同窓会」の開催費用、在校生への後援費が主なものです。
四年ぶりの開催となった「春の同窓会」は会費を従来通り一万円に据え置きました。が開催費用が物価高騰の影響で予算を超えてしまいました。しかし決算全体では単年度収支の黒字化が図れ繰越金は増えました。
春の同窓会の開催が決定
昨年度は三年間のブランクを経て久しぶりに春の同窓会を開催することができました。来たる令和七年二月十一日(火・祝)も幹事学年となる昭和五十五年卒業の皆さま

令和5年度決算及び令和6年度予算

Financial statement table with 4 columns: Item (科目), 6年度予算, 5年度予算, 5年度決算. Includes sections for 1. 収入の部 (Income) and 2. 支出の部 (Expenditure).

んを中心で開催準備中です。(詳細は最終ページを参照)
今後の活動方針
当同窓会の永続的な発展を目指した方針を総会で発表し承認されました。詳細については四・五ページをご覧ください。



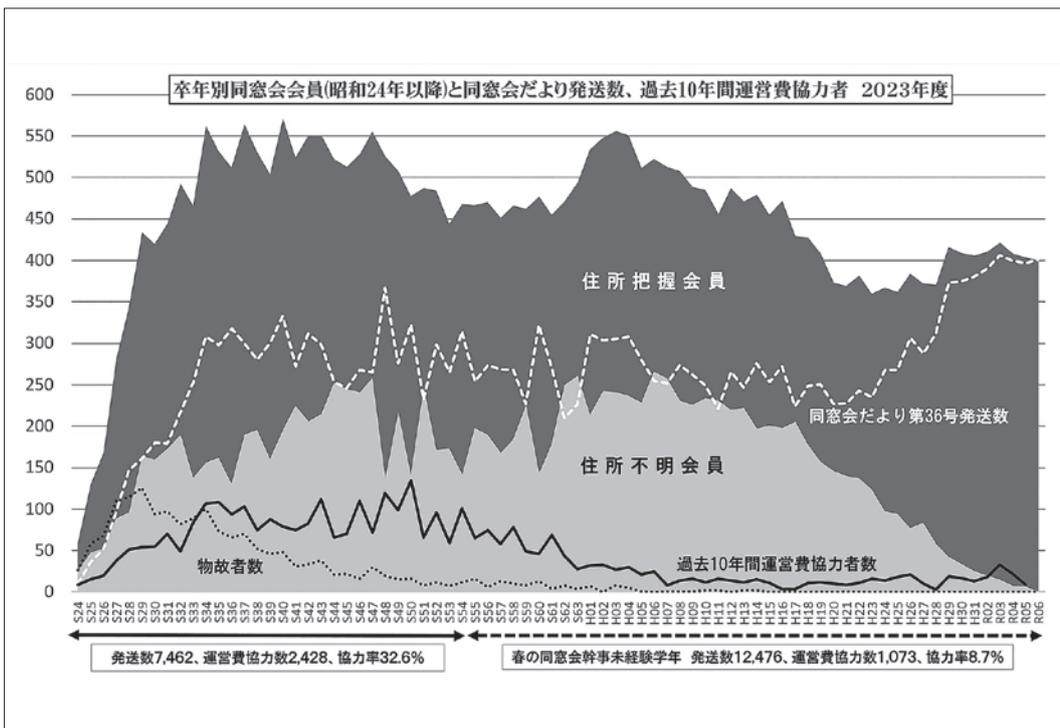
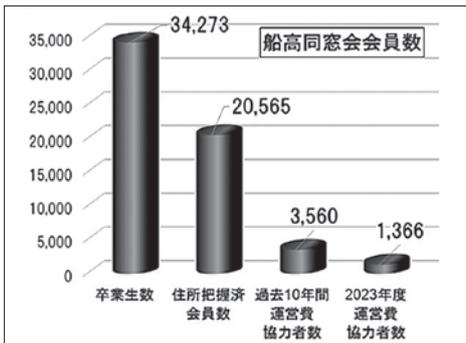
同窓会の現状と今後の活動方針

同窓会副会長・事務局長 森 和俊 (昭和五十年卒)

◆同窓会の現状◆

コロナ禍の令和二(二〇二〇)年に母校は創立百周年を迎えました。そしてあと五年余りで百周年となります。一方、千葉県立船橋高等学校同窓会(以下船高同窓会)は、市立船橋中学校の第一回卒業生による昭和八(一九三三)年の設立を起源とすると今年で九十一周年を迎えたこととなります。

いまでもなく私たちの活動は母校・船高をベースに卒業生同士のつながりを広げ、そして卒業生による在校生への支援から成り立っています。今や会員は三万四千人(大正十二年以降



の全卒業生)を超え、所在が分かっている会員だけでも約二万人という一大組織となつています。

単年度の同窓会活動の結果と計画は毎年開催される総会で報告

告されていますが、今回は長いスパンでその活動を考えてみたいと思います。

(1)会員

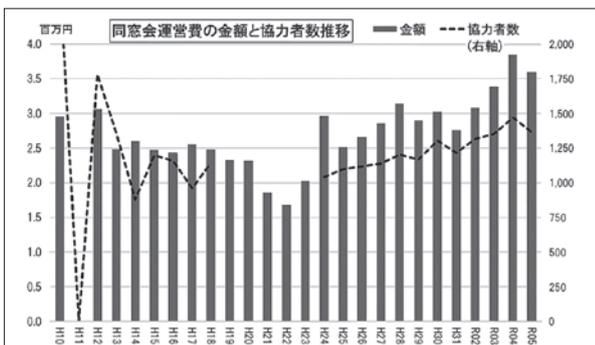
上のグラフは令和五(二〇二三)年度における卒業年別会員の人数を住所把握済みと不明者に分けて面グラフで表しています。会員数は便宜上卒業生台帳データ(百周年記念誌から)にある卒業生数を使用、住所把握会員は同窓会会員名簿データから引用し学年ごとにその差を住所不明会員として集計しています。なお物故者は住所不明者に含まれません。

同窓会だよりは昨年発行の第三十六号までの六年間は住所を把握している方全員(受取り拒否者除く)に発送してきました。その数は約二万五百名です。毎年約四百名の卒業生が新会員として加わりますがほぼ同数の会員が住所不明者(ほとんどが転居先不明)と物故者になるため発送数はほぼ横ばいとなっています。

(2)同窓会予算の収入

さて同窓会予算の収入は、主に毎年の卒業生(新会員)の入会金(永年会費)と会員からの寄付(同窓会運営費)で成り立っています。これに「春の同窓会」の損益を加えたものが実質的な収入と言えます。ここでは会員の皆さんからの寄付(同窓会運営費)についてご説明いたします。

ご存知のように運営費は一口



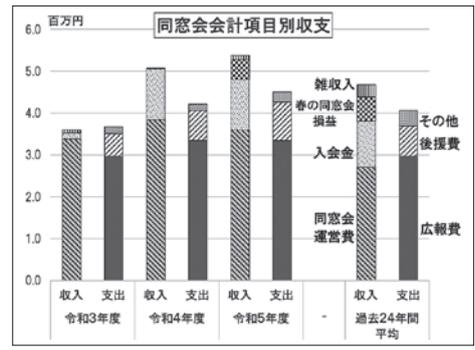
千円とした会員の皆さんからの寄付で成り立っています。その始まりは平成十年発行の同窓会だより第一号で呼びかけた「事業協力金」にあります。その主たる目的は創立八十周年記念事業に向けて同窓会だよりを全会員に発送することでした。平成二十一年度(二〇一〇)に同窓会運営費と名称を変更しましたが一口千円からの寄付は同じで、令和五年度は千三百六十六件、約三百六十万円(ひとり平均約二千六百円)を頂きました。左のグラフはこの寄付制度を取り入れた平成十年からのもので平成十一年を除いて今日まで続いています。直近十二年間の皆さんからの協力は拡大傾向にあり大きな支えとなっています。

(3) 同窓会予算の使い道

右のグラフは直近三年間の収入及び支出の推移と過去二十四年間の平均値です。収入は前述しましたのでここでは支出についてご説明します。

支出の多くは年一回発行される同窓会だよりとホームページの管理にかかわる広報費が占め、後援費、その他(会議費・需用費等)と続きます。既報の通り令和三年度は入会金の卒業時への集金時期の変更に伴う収入減、そして春の同窓会についても令和四年度まで開催されていないため損益が発生していません。そういう意味では令和五年度はようやく平常時に戻ったと言えます。同じく後援費もコロナ禍を経て部活動が復活し徐々に増えてきています。

以上の現状を踏まえて今後の活動方針は、同窓会会計における永続的かつ安定した収入の



確保と効率的でバランスの取れた支出を工夫することとしました。

◆ 今後の活動方針 ◆

以下の施策により会員の母校愛の醸成と寄付(同窓会運営費)の維持拡大及び有効活用を永続的に図っていきます。なお各施策の運用は具体案が令和七年度の総会で承認されたのちとなります。詳しくは令和七年八月下旬に同窓会HPに掲載します。

また下のグラフにあるように後援費については現状(令和五年度と過去二十四年間の実績)が令和十年頃には増加することを見込んでいます。

(1) 会員の交流促進Ⅱ卒業後の同期同窓会(同期会)の開催支援

同期会の開催補助については以下の骨子のもと、令和七年度からの開始に向け具体的な補助方法等を役員会にて策定しております。(総会にて承認済み)

- ①卒業後に開催する同期会に対して補助金を支給する。なお補助金は年度ごとに一回までとし、申請には開催結果(参加人数等)を報告するものとする。また従来のクラス会補助は廃止し本支援(同期会への補助)に統一する。
- ②同期会のきつかけづくりとして、同窓会では卒業後五年ごとの周年記念の対象学年を同窓会だよりやホームページにて告示し同期会の開催を呼

び掛ける。ちなみに春の同窓会の幹事学年は卒業後四十五年間に該当します。

(2) 会員と在校生の交流促進Ⅱ部活動OB・OG会結成の呼びかけ及び支援

会員(部活動のOB・OG)同士の親睦を深めることに加えて、後輩となる在校生の部活動を支援できる体制づくりを目指します。

部活動OB・OG会の開催補助については以下の骨子のもと、令和七年度からの開始に向け具体的な補助方法を役員会にて策定しております。(総会にて承認済み)

- ①「部活動OB・OG会」の活動に対して補助金を支給する。なお補助金は年度ごとに一回までとし、申請には会則の制定、総会の開催結果(参加人数等)を報告するものとする。また代表者はオブザーバーとして理事会に参加できることとする。
- ②在校生との交流(合同試合・合同練習・合同発表等)については上限を設けた上で経費を補助する。

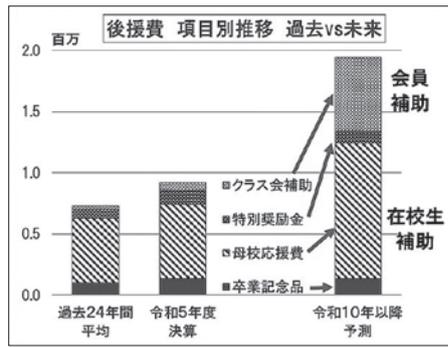
(3) 在校生の活動支援

在校生に対しては従来の母校応援費(在校生補助に名称変更)をベースに幅広い後援を行っていくものとします。在校生への補助は、移動用ワンボックスカーの供与が廃止されたことも絡めて対応していきます。

- ①地方大会・全国大会への出

場者または団体に対して大会への参加費を補助する。

②部活動に限らず在校生が必要とする物・事への補助は学校長と協議の上実施する。



(4) 効率的な情報提供

同窓会だよりの発行経費を抑制するために発送対象を以下の方法で選別いたします。同時にホームページでのタイムリーな情報提供を工夫していきます。

前述の同期会や部活動OB・OG会の開催情報は適時ホームページ上に告知していきます。

▼同窓会だよりの発送ルール

- ①から⑤の該当者に郵送されています。(総会にて承認済み)
- ①本誌発行年度末に卒業後五年ごとの周年記念を迎える学年全員
- ②本誌発行年度の春の同窓会幹事学年及び次年度幹事学年の全員

③「同窓会運営費」を過去十年間(二〇一四―二〇二三年度)ご協力いただいた方全員

④創立百周年記念事業にご寄付いただいた方全員

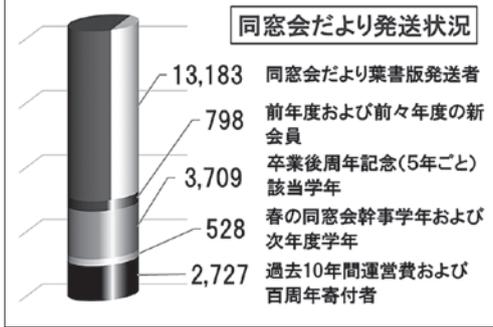
⑤本誌発行年度の前年及び前年度の同窓会新会員

左のグラフはこれらのルールに基づいた同窓会だより第三十七号(本誌)約七千八百通の発送内訳です。

※本誌発行年度三月の卒業生には学校にて全員に配布されます。

なお同窓会だよりを発送しない会員へは「同窓会だより【はがき版】」にて春の同窓会の開催案内等を告知します。

同窓会だより発送状況



◆ 後援費の原資ともなります「同窓会運営費」につきましては、重ねてのお願いとなりますが多くの方からの協力を賜りますようお願いいたします。

船高の歴史より(三)

『篝火』について

山田 敏明 船橋東高校講師 昭和四十九年卒

▼船高の最長年間冊子『篝火』

前号でご紹介した『研究紀要』とともに、現在も続いている冊子、定時制文芸部・生徒会出版委員会編集による『篝火』(かがりび)をご紹介します。

『篝火』は「千葉県立船橋高等学校定時制/全国定時制創立十周年記念特集号」として一九五八(昭和三十三年)三月一日に創刊され、以来毎年発行、現在まで六十五号を数える冊子です。

▼創刊号の構成

創刊号は、A5判総頁数一一六頁(本編九十七頁、付録の同窓生名簿十九頁)、編集後記に、「編集人 宍倉稔・福田米子、発行人 葉山脩平、印刷人 阿佐基一、発行所 定時制文芸部」とあります。

内容構成は、内田篤夫校長の巻頭言「文集を心の糧として今一層の前進を」の後に、同窓生と旧・現職員による「特集座談会 学校生活あれこれ」(『創立五十周年記念誌』・『船橋高校百年史』に一部掲載)十七頁、内門栄純主事(この主事は教頭・副校長にあらる)の「定通教育十周年に際

執筆者紹介(やまだとしあき) 昭和四十九年三月卒業、昭和五十四年度より令和二年度まで県立高等学校国語科教諭、令和三年度から臨任講師。平成二十一年度から十二年間と令和四年度船高全日制に勤務。船高百年記念事業に携わる。

して」二頁、卒業生・在校生・職員寄稿による詩・小説・随想・論説など四十作品八十九頁、「生徒会の活動」(組織・クラブ活動) 紹介三頁、編集後記二頁です。

編集後記によると、五名の編集協力者を得て、学業と勤務時間の関係で編集会議を持つことが難しいなか、図書館や顧問の先生の家なども使い、苦勞してようやく発行にこぎ着けたということでした。

▼内門栄純主事「定通教育十周年に際して」から

このころの船高定時制を中心とした教育事情について、内門主事は「定通教育十周年に際して」の中で次のように記しています。

「定時制高校が発足して十年目を迎えた。本校は夜間中学として昭和十八年に発足し、戦後の学制改革で現在に至っている。(中略) 諸般の事情から閉鎖した学校もあつたが、本校は幸いに現在に至っている。産業人の知識技能の向上が国を起すことの要因であるとは私は主張し、現在もその節を曲げていない。戦後十年の歩みを思い見

(中略) 問題点を项目的にあげてみたい。(1)照明、(2)設備施設、(3)暖房、(4)給食、(5)福祉厚生、(6)就職斡旋、(7)啓蒙と生徒募集、(8)教育課程(中略)。(7)の項は定時制教育が

ようやく軌道に乗った現在、さらに地域の中に深く根を下し、地域社会との融和と相互関係に於て発展させなければならぬだろう。(アメリカ、イギリス、ソ連などでは)働

きながら学ぶものこそが本當に学びの喜びを知るものであり、国家社会に連なる教育であるということこそ誰かが理解している。(それに対して)何か日陰のものであり、継子であり、二流であるという顔をする日本はまだこの点では後進国であると考えられる。(し

かし) 本校の生徒を見ても、運動でも、学問でも、決して昼間部に劣っていないことを直ちに証明できる。国家公務員試験、学力検査、運動競技の記録などを見ていただければわかると思う。象牙の堂宇にこもることを学問とし、特権とする夢をいまだ捨てられないのではないか。それ以外に定時制が第二義的に見られ

▼創刊時までの時代状況

創刊号が企画された一九五七(昭和三十一年)年度は、日本国憲法施行、教育基本法・学校教育法公布(一九四七・昭和二十二年)から十周年にあたります。新しい教育制度に基づいて、新しい高校が発足し、「通常の課程」と「夜間の課程」で生徒募集がなされたのはその翌年からで、「夜間の課程」が「定時制課程」に名称が変更されたのは、一九五〇(昭和二十五年)年度でした。一九五七年は国民生活の向上が進むなか、前年の「もはや戦後ではない」、この年の「復興から発展へ」ということばが、技術革新による発展を願う日本の指標のようになりました。また、八月に東海村で研究用原子炉の臨界が始まり、十月にはソ連が人工衛星の打ち上げに成功するなど、科学技術に関する記事に注目が集まりました。こうして世の中の状況を受けて、高校進学率も高まりつつあり、船高は全日制普通課程二十四学級、農業課程三学級、定時制普通課程十二学級、一千八百名前後の生徒が在籍していました。「船橋市高等学校定時制教育通信制教育振興

会結成趣意書」が提出されたのもこの年度でした。▼その後の『篝火』と貴重な講演記録 記念文集として編集発行された『篝火』は、第五号より発行が「文芸部」から「定時制出版委員会」になりました。当初は詩・随想・小説・評論・読書感想文が中心でしたが、次第に文芸部員の作品の特集、卒業生の文章の特集、卒業生への先生方のことばの特集、各クラブ活動や生徒会活動の詳細な紹介、各クラス紹介、修学旅行報告、校内弁論大会最優秀作品、その年度の学校生活・行事・生徒会活動を大成したものなど各部門の編集がなされ、現在に至っています。また、一九九一(平成三)年度の第三十二号には、谷津干潟の保全に尽力なさつた同窓生、森田三郎さんによる創立七十周年記念講演「私の歩んだ道」の全文、質疑応答、生徒の感想等が掲載されました。この定時制初の講演の記録は『船高七十年史』では谷津干潟保全の部分の転載、『百年史』では概略のみの掲載でした。その点でも全てを掲載した『篝火』は貴重です。

世間では、いろいろな分野でペーパーレス化が進められています。紙であるからこそ現在まで存続するこれらの冊子を、貴重な宝として継承し、発行し続けていってほしいものです。



澤井 智毅
(昭和55年卒)

世界知的所有権機関
(WIPO) 日本事務所長

筑波大学大学院修士課程修了後、経済産業省特許庁入庁。審査官、審判官、JETROニューヨーク・知的財産研究所ワシントン所長、国際課長、調整課長、審査第一部長、審査第一部長等を歴任。弁理士。



内定切りと知価革命、 そして知財の伝道

元総理をはじめ、錚々たる方々の過去の記事を拝読し、公僕にしか過ぎない私が何を書くべきか思い巡らしていたとき、都内の高校生達が、私のオフィスを訪ね、インタビュをしてくれました。その最初の質問が、「今の仕事に就くきっかけは」というものでした。本稿も、そこから書き出してみようかと思えます。

国家公務員、国際公務員を通じて、私は「知財の伝道師」を標榜しています。「知財」すなわち知的財産制度や知的財産権の役割を、広く中高等学校や産業界、法曹界に伝えていく、そんな思いで半生を過ごして参りました。知的財産に携わる、その最初のきっかけは「内定切り」です。大学で空気力学や航空工学を学んでいた私にとつての憧れは、国立の航空宇宙技術研究所(NAL、現在のJAXA)でした。幸いにも国家公務員試験に合格した私は、全国で採用枠2名しかない同研究所に修士1年の時に早々に内々定をいただきました。その年の国際学会での最年少者としての発表や、部活動(舞踏研究会)での主将の経験、担当教授の同分野での知名度が奏功したもので

と思います。そんな修了後の未来に希望を膨らませた修士2年の7月、同研究所から、「定員減のため採用枠を1名にせざるを得ない。内々定はなかったことになってくれ」との連絡がきました。就職戦線が既に終わりを告げようとした中で、暗転です。航空宇宙の研究の道が閉ざされ、ならば霞ヶ関にと、遅まきながらいくつかの省庁を回りました。

知的財産を志す第二のきっかけは、当時のベストセラー、堺屋太一氏が未来予測を記した「知価革命」です。本書で、知価との概念を創出し、次代は「デザイン性やブランド・イメージ、高度な技術、あるいは特定の機能の創出といったことが、物財やサービス価格の中の大きな比重を占める」と予測していました。その予測に触発され、高度な技術、デザインやブランドを所管する官庁である、特許庁を選びました。内定切りがあったその月の日本経済新聞のコラム「公務員の挑戦」に、同行審査官の活躍が「空飛ぶ特許マン」として描かれていた連載を目にしたことも、運命的に感じました。

その後、堺屋氏の予測のとおり、日本においても知価への関心は高まり、二〇〇二年には知的財産基本法が制定されるにまで至り

ました。この間、私自身も国内外で多くの機会と責任をいただき、特許庁発足以来の長年の課題であった特許審査滞りの解消策として、荒唐無稽と当初は誰にも賛同されなかった特許出願の量から質への抜本転換策や、他省では実現し得ないほどの審査官定員増を実現し、滞りを一掃することができました。また、50年以上も大きな法改正がされていなかった意匠法を抜本的に見直し、画像デザインや建築物デザイン、内装デザインなどを新たな保護対象とする改革案を提案し(これも同様に野心的すぎるとの指摘を受けました)、令和元年の意匠法改正につながりました。最新の意匠出願ランキングに、ある建築会社が、IT系企業や事務機器企業とともにランキングし、トップに躍り出たことを知り、正しい法改正を実現したと内心喜んでいきます。実現不能と揶揄され、反発も少なくなかったこれらの各施策や法改正は、上記の「内定切り」がなければ、提案さえもされず、実現もなかったであろうと凶々しくも自負しています。

ただ、堺屋氏が描いていたような知価が「価格の中に大きな比重を占める」にまでは至っていません。何より、知的財産への認識は、いまだ日本では国民に広く浸透していないのです。途上国をも含む世界の50か国を対象とした国際的な認識度調査が二〇二三年に行われ、日本が最下位との結果は、その証左です。

かつて、日本型経営は「JAPAN'S No.1」にも記されていたように世界の注目でした。実際、レー

ガン政権下の大統領経済諮問委員会は一八八五年、序文から日本を大いに意識し、「グローバル競争・新たな現実」との提言をまとめました。この中で、競争力の源泉とした、特許などの知的財産権の保護強化が必要であるとしています。この答申を受け、知的財産のたまたみに寛大であった米国が、方針を変え、'90年代以降の医薬やICT分野をはじめとした長期に及ぶ技術発展に繋げ、国際競争力を大いに回復させました。近時の米国の対中戦略にも見られる姿です。

一方、複雑なモノを作る能力「経済複雑性指標」が長く世界一であるなど、最も創造性が高い国と評価される日本、研究開発投資額も世界に先駆けて対GDP比3%を超えて20年を超過する日本が、なぜ失われた30年を過ごさずのしょう。米国に触発され、欧州やアジアのみならず、起業や国の発展には知的財産権が不可欠と、その意識を高める世界を相手に、創造性や研究開発の成果たる知的財産を過小評価している日本は、いくら良いものを作っても直ちにその技術や市場を奪われるのも必然でしょう。何より、日本が不得手な他社連携やオープン・イノベーションには、安心して手を繋ぐために有効な知的財産権が不可欠です。また、排他的な独占権である知的財産権を持てば、価格決定権も持ち、上記の堺屋氏の予測に繋がります。安売りの買い叩かれることもない、生産性も賃金も大いに改善することでしょう。

日本の未来のためにも、知的

財産の価値を高めなければならぬ、相場観を世界水準に上げなければならぬとの伝道師の思いは、国際公務員であったも、そしてこれから先のような立場になっても変わりはありません。スーパーサイエンスハイスクールに指定されるなど、新進気鋭な気質を持つ船橋高校やその卒業生は、これからの知的財産を含む無形資産を重視する国際社会に大いに貢献するものと確信しています。

今回のこの執筆の機会は、同期の坂間明彦様と田中宏道様からいただきました。お二人は、二〇二五年の全体同窓会幹事団の代表でもあります。週末も忙しく、同窓会の準備を進めるお二人をはじめとした幹事団の皆様、にただただ頭が下がります。本稿をお読みの皆様にも、是非同窓会にご参加をいただき、皆様の重要な無形資産(知的財産)たる旧交を温めていただければ幸いです。知財の伝道は続きます。



エマニュエル駐日米国大使(右)主催の知的財産関連イベントにて挨拶(2023年7月、同大使公邸にて)

おたよりの彼ね是れ

現状◆令和5年度を振り返って

● 近藤久夫(昭和29年卒)

同期生は昨年と今年(令和5年)で米寿を迎えましたが、鬼籍に入られた仲間も多くなりました。われわれ生き残った者が頑張ります。

● 小川寿三郎(昭和34年卒)

歳を重ねて83歳になりました。在学中はバレーボール部に所属し千葉県大会三連覇を達成し伊予西条、東北仙台、山口湯田で開催されたインターハイに出場しました。第13回国体富山大会への出場も青春の思い出として懐かしく思い出されます。その後も後輩たちが活躍し県大会9年連続優勝を成し遂げ船高バレー部の輝かしい時代が築かれたのです。

● 葛西雅夫(昭和45年定卒)

中身の濃い四年間でした。「学校に來い、休まずに來い、そうすれば俺が卒業させてやる」そんな事を言ってくれた先生たち。食べ盛りの俺たちにうまい給食を食わせてくれた栄養士の先生。そして同じ釜のメシを食った仲間たち。そんなみんながいたから卒業できました。今も元気に働いています。

● 小林(露崎)洋子(昭和46年卒)

国立劇場が閉場してしまいましたが、昭和43年の夏に学校行事で「菅原伝授手習鑑」四段目「守子屋」を鑑賞し、締め手の体験目を見張る鮮やかな舞台に感激しました。今では歌舞伎鑑賞にはまっています。

● 山岸佳子(昭和47年卒)

前号のわが同窓の林昇志氏のインタビュを拝見して、改めて平和の大切さを思いまして、多くの若者の希望を奪う戦争が一日も早く終わることを望みます。

● 福田雅人(昭和57年卒)

とうとう還暦を迎え、昔は隣の上司が毎朝10粒ほどの薬を机に並べているのが嫌でしたが、いつの間にか自分が同じことをして、天国の上司にお詫びした次第です。

● 大串 清(旧職員)

天気の日には農耕・村の共働作業・ゴルフ、雨が降ったら読書(源氏物語講読会)、結構忙しい毎日を過ごしています。後期高齢者の仲間入りをして早や一年。県船での13年は教員生活の青春時代だったなあと、しみじみ思い返しています。

● 野口和弥(昭和61年卒)

二年前から同級生と「千葉スリパチ学会」という町歩きサークルで県内各地を歩いています。

◆以上は令和5年度の運営費「払込取扱票」通信欄または返信葉書に記載されたものの中からご本人の了解を得て掲載させていただきました。紙面の都合で掲載しきれないことお許しください。(編集部)

百年史の追加訂正

「本校史1記録編」60頁のすべての「攬」(誤)↓「攬」(正)「資料編」2頁題名「千葉県立高等学校歌」(誤)↓「千葉県立船橋高等学校校歌」(正)、歌詞「二番三行目」・「刺明朝」(誤)↓「潑刺明朝」(正)

放送委員会

7月23日からの「第71回NHK杯全国高校放送コンテスト」に、創作テレビドラマ「言の葉」とラジオオドキュメント「音色繋げて」の2作品が出場しました。

「言の葉」の制作責任者で3年生の中谷くん曰く、作品を完成させるまでに約半年ほどの時間をかけ、作品にどんな思いを込め、何を視聴者に伝えたいのかを追求し続けながら制作したとのこと。音色繋げては、5月3日に行われた、現役合唱部とOB・OG会の有志(合唱団と室内管弦楽団)の第2回合同演奏会を取材した番組です。(写真=編集風景)



両作品とも準々決勝敗退となりましたが、これで引退の3年生達は、「ここまでやり切れたという実感を達成に託したいです」と話しています。この夢は私達にとって夢物語ではありません。全国優勝は2005年のラジオドラマ「れんあい実習」まで遡りますが、2017年に準備したテレビドキュメント「Project D」など、これまで先輩方が決勝進出を何度も果たしています。先輩方の背中から学び、地道な努力を積み重ねていくことで、夢が現実味を帯びることを現役生にも伝えてまいります。

結びに代えまして、どちらの作品もOB・OGを含み多くの方々のお力添えがなければ出来上がりません。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。(顧問 宮崎春菜)

定時制バドミントン部

定時制バドミントン部は、これまで部活動を経験したことがない生徒、競技を楽しむことが目的の生徒、競技未経験ながら定時制全国大会を目指して練習する生徒まで、多様な生徒が参加する部活動です。練習は主に、平日の放課後に行います。休日に練習を行う場合は全日制の部活動が終わった後に行います。ただ、全日制で想像する「部活動」のイメージとはかけ離れており、活動は強制ではなく、本人たちのやる気に応じた練習メニューが展開されます。

全国大会に出場するためには、6月に行われる春季定時制大会にて、ダブルスは優勝、シングルスはベスト4まで勝ち上がることが最低条件となります。今年度は、4年次生の部員4名(男子2名、女子2名)が全国大会の切符を手にし、神奈川県の小田原アリーナにて戦って参りました。

全国大会は、「千葉県の代表」として他校と連合し、都道府県対抗で団体戦を行います。大会までに数日間の合同練習を組み、その短い期間の中で親睦を深め、また同時に団体戦のオーダーを考えます。様々な個性や背景を抱える生徒たちの団体を作り上げて行くことは容易ではありませんし、またまった練習もなかなか出来ない環境ではありますが、各々の力を結集して一つの勝利に向かっていることは、それまでの試合とは違った重圧があり、選手たちの記憶にも強く残るようです。今年も団体戦で何とか1勝を挙げることができ、よい経験となりました。後輩たちは、次年度も全国大会にいくように練習を重ねていきましよう。

在校生の活躍

令和六年度

《記号説明》
母校応援費の支給対象▼◎全国大会、○地方大会(全国大会の予選を兼ねるもの、関東大会など)
◎地区大会(県大会など)▼①新人大会、②関東大会予選、③県総体・県総文、④千葉県高等学校校定時制通信制体育・文化大会、⑤その他 Dダブルス、Sシングルス

◇全日制◇運動系部活動◇ソングリーディング

◎USA School & College Nationals 2024 全国選手権大会12位 ○令和5年度ダンスドリル秋季関東大会 OZGROM部 Medium編成高等学校校団 8位 USA School & College Regionals 2024 東京大会 6位 ◎令和5年度東日本高等学校ダンスドリル競技大会 OZGROM部門 Top8編成1位

アーチェリー

◎第42回関東高等学校アーチェリー選抜大会 男子個人33位 李、57位 金井 藤代、女子個人33位 酒井 ○2023年度関東地区ターゲットアーチェリー選手権大会 女子個人20位 酒井 1位 女子団体3位(酒井・中村・中野・橋本・村尾・島木、男子団体4位(金井・藤代・網倉・李・山崎・板橋、女子個人7位 酒井、12位 橋本、16位 中村、男子個人13位 網倉、②男子団体4位(金井・藤代・網倉・李、女子団体4位(酒井・中村・橋本・村尾、男子個人5位 李、③男子団体5位(金井・藤代・網倉・李・丸山・村田、女子団体5位(酒井・中村・中野・橋本・村尾・島木)、男子個人16位 網倉、女子個人12位 橋本 ◎令和5年度千葉県高等学校アーチェリー選手権大会 男子団体6位(金井・藤代・網倉・李・丸山、女子団体6位(酒井・中村・中野・橋本・村尾)

水泳

◎水球6位、競泳男子総合8位、男子50m自由形5位 扇谷、100m自由形5位 扇谷、同200mリレー7位(扇谷・石原・谷口・室木、同200mメドレーリレー8位(徳久・石原・谷口・室木、女子40m自由形8位 阪井彩、同100m背泳ぎ5位 森住、同200mバタフライ

令和六年度 「春の同窓会」案内

実行委員長

酒匂 一揮 (昭和五十五年卒)

「春の同窓会」が本年もホテルグリーンタワー幕張で開催される運びとなりました。会は二月十一日に定期的に開催されており、名称を変更しながら、一九九五年(平成七年)を「第一回春の同窓会」として開催され今回で第二十八回を迎えることとなります。県船の校舎で多感な高校時代を過ごした我々が、世代の枠を超えて一堂に会し、旧交を温める絶好の機会となります。同期や知り合いの方々をお誘いの上、是非、会を盛り上げていただきたいと存じます。

さて、我が母校の船橋は令和四年より長寿命化改修工事が行われており、武道場、南館、新館が完工しました。理科の各実験室や研究室、図書室は、配置は変わらないものの少し狭くなりました。美術室は新館二階から南館の一階に移動しました。私が高校生であった頃の場所に戻ったことになりました。食堂は大きく様変わりしました。三百人程度を収容する大広間に百人程度のスペースとして中央に据え、そこを取り囲むように五教室を新設しました。これにより、少人数や習熟度学習を展開する演習室として、定時制においては多種多様な教科科目の授業を展開する多目的室として使用します。春の同窓会の頃には、本館が工事中となります。我々が過ごしていた教室を思い浮かべ、当時の様子を仲間達と大いに語り合うべく、「春の同窓会」へのご参加をお願いいたします。

春の同窓会 ホテルグリーンタワー幕張4階 ロイヤルクレスト

2025年2月11日(祝・火) 12:30開宴 開催案内

- ◇受付 午前11時30分から12時20分まで4階宴会場入口にて
◇開宴 12時30分(15時30分閉宴の予定) ※冒頭に幹事学年提供のビデオ放映があります。
◇会費 10,000円 (ご注意) 会費は当日の受付にて申し受けます。運営費と一緒に振込みはできません。

- ◇返信葉書の記入について
【出席の方】 同封の返信葉書(切手不要)に必要事項を記入の上2025年1月5日までに投函して下さい。
【欠席の方】 欠席のみの方返信は不要です。ただし住所等の変更がある方、通信欄を記入される方は必要事項を記入の上1月5日までに投函して下さい。

- ◇その他
【会場の座席】 会場でのお席は円卓別に指定されますので当日配布される会次第書にてご確認ください。なおお食事は着席で個別に給仕されます。
【ご注意】
1 急用による欠席については2月10日までに下記へ必ずメールして下さい。 funako100dai9@gmail.com
2 出席のお申込み無しに当日来場された場合、入場をお断りすることがあります。
3 会場では個人による発表・演奏等は固くお断りします。

- ④ 飲酒を伴いますので20歳未満の方は参加できません。
⑤ 学校及びホテルへは問合せできません。

◇会場までの交通

- 電車でお越しの方はJR京葉線 海浜幕張駅より徒歩約3分、JR総武線・京成線 幕張本郷駅からバスで15分海浜幕張駅(終点)下車後徒歩約3分です。
● お車の方はホテルの駐車スペースに限りがあります。満車の場合は近隣の有料駐車場をご利用下さい。



同期会 OB・OG会 活動情報

同窓会の今後の活動方針(4.5頁)で説明した通り、同期会及び部活動OB・OG会の活動情報を発信していきます。同窓会だよりではタイムリーな案内は難しいので、最新情報は適時同窓会ホームページで案内します。案内を希望する場合は同窓会HPにある「連絡フォーム」を利用して同窓会事務局までご連絡ください。

【同期会】

昭和55年卒同期会
春の同窓会幹事学年の皆さんは本会の終了後同じホテルの別会場で開催されます。当日は同期会のみへの参加も可能です。参加を希望される方は同封の「春の同窓会」参加申込はがき」にある「幹事学年同期会参加」に○を付けて投函してください。同期会開催日時：令和7年2月11日(火・祝)午後16時開宴 会場：ホテルグリーンタワー幕張3階メيوفエア会費：3千円(当日会場にて集金)

昭和42年卒同期会

令和七年七月七日に喜寿の同期会を予定しています。連絡は各クラス幹事まで。昭和51年卒同期会

昭和51年卒同期会

毎年1月初めに同期会を開催(昨年は約60名が参加)連絡はメールのみ。連絡は幹事の村上治まで。

編集後記

今年も無事に同窓会だよりをお届けできました。改めて多くの方々のご協力に感謝申し上げます。さて十月からの郵便料金値上げはかなりショッキングな出来事です。本誌も六年間続けた全会員への発送の見直しを迫られました。紙媒体での年一回の情報提供については賛否が分かれるところですが、画面を見るのではなく、やはり紙面を読む行為は大事にしたい気がします。なお今回は、内容とスペースの狭間の中、文字サイズを少しでも大きくしてみました。如何でしょうか。(編集長 森 和俊 記)

昭和50年卒同期会
本年度3月末で卒業50周年を迎えます。これを機に同期会の開催を予定しています。日時・場所等の情報は同窓会HPにて3月末までのご案内します。
【部活動OB・OG会】
今のところ同窓会では以下の組織の存在を把握していますが活動内容は不明です。今後同窓会と連携していくための相談をしたいので幹事の方は事務局までメールにてご連絡ください。